



令和4年6月30日 (No.4)

小金井市立南小学校

TEL 042-383-1149

くじらぐも 042-385-6310



学校 HP

自分事化して考え行動する

校長 檀原 延和

6月としては異常な暑さが続いています。27日に梅雨明けが発表されました。これは、1951年以降で最も早く、梅雨の期間も最短だったとのこと。地球温暖化の進行が危惧されて久しいですが、その危機を改めて感じずにはられません。

先日の全校朝会で、「ハチドリのひとしずく」の話をしました。

ハチドリのひとしずく

いま、わたしにできること

この物語は、南アメリカの
先住民に伝わるお話です。

森が燃えていました
森の生きものたちは
われ先にと

逃げていきました

でもクリキンディという名の

ハチドリだけは

いたりきたり

くちばしで水のしずくを一滴

ずつ運んでは

火の上に落としていきます

動物たちがそれを見て

「そんなことをして

いったい何になるんだ」

と言って笑います

クリキンディは

こう答えました

「私は、私にできることを

しているだけ」



(監修 辻信一 光文社より)

読み聞かせをした後、子供たちに、「クリキンディは森の火事を消すことができたのかどうか、続きの話を考えてみましょう」と話しました。そして、「森が燃えている」というのは何を意味しているのか、私たち一人一人にとっての「ひとしずく」とは何かを考えようと子供たちに伝えました。全校朝会でまた話をしていく予定です。

この本は、一見、普通の絵本のように見えますが、前半の15ページのみが「ハチドリのひとしずく」の絵本になっていて、後半は、辻信一さんの「ハチドリのひとしずく」にかかわる思いや考えと賛同者へのインタビュー「私は、私にできることをしている。」で構成されています。この中で、私が特に印象に残った一節は、「地球温暖化、戦争、飢餓、貧困……。ぼくたちの生きている世界は深刻な問題でいっぱい。しかし、それらの重大な問題より更に大きな問題は『これらの問題に対して自分にできることなんか何もない』と諦めを感じてしまっていること。」です。

自分たちが暮らす森が燃えているのを目の前にして、「そんなことをしていったい何になるんだ」と笑われようとも、「私は、私にできることをしているだけ」と、くちばしで一滴ずつ水を運び続けるクリキンディの姿に、心を揺り動かされ、いろいろ考えさせられた人も多いことでしょう。

小金井市は、令和4年1月に小金井市気候非常事態宣言を表明しました。この宣言を受けて、学校では、SDGsとも関連させながら環境問題等をはじめとする社会問題を「自分事化」する教育活動を進めています。もうすぐ夏休みです。自由研究の一つとして、子供自身が気付いた「課題」に対してその実態を知り、その解決方法を考え、どんな小さなことでも「私にできること」に取り組んでほしいと願っています。夏休みに向けて、お子様と話題にさせていただければ幸いです。

お便りのペーパーレス化について

本校では、6月の中旬からお便りのペーパーレス化を目指し、まなびポケット保護者アカウントを使ったお便りのデジタル配信を始めました。1学期間は移行期間とし、紙とデジタルと両方でお知らせいたします。2学期になりましたら、原則、まなびポケット保護者アカウントでのデジタル配信へ移行いたしますのでご承知おきください。(ICT担当)